



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園緒方中学校 学校だより

青雲の大志

令和6年12月20日

NO. 68 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

未来につながる農業

7年生の郷土学は「農業に学ぶ」をテーマに、自分たちの地域の魅力を再発見するとともに、自分の生き方や将来について考える学習を進めました。地元を中心に未来につながる農業に従事されている次の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。

- 豊後大野市関係人口交流拠点施設 **cocomio**のみなさん
- タレント活動をしながらカボス農業経営もされている**森祐作さん**（講話）
- 緒方町アライズ代表 **鈴木薫さん**（講話と体験収穫）
- 合同会社朝地牛代表 **羽田野利夏さん**（講話と牛飼い体験）



◇郷土学習をする前の農業のイメージは、儲からなさそう・大変そう・きつそう・暑そう・寒そうなどだったけど、郷土学習をして、農業に対するイメージが変わりました。農業はちゃんと儲かっていたり、そこまで大変ではなかったりしたことが分かりました。森祐作さんや鈴木さんの話を聞いて、農業に少し興味をもちました。（後略）（森 結佳さん）

◇cocomioやいろんな所に行ってから、農業に少し興味が湧きました。中でも僕が印象に残ったのは朝地牛です。たくさんの牛が飼育されていたから、すごいと思いました。僕も少しやってみたいと思いました。興味が湧いたのでよかったです。

（甲斐 大翔さん）

◇私がこの郷土学習を通して学んだことは見た目で決めるのではなく、中身をしっかりと知ることが大事だということです。森祐作さんの話では、農業が大変だと思っていたけれど、自分で仕事のやり方を

変えれば仕事がもっと楽しくなると知ることができました。鈴木さんの話では、工夫して野菜を売ることで他よりも売れるし、自分でも楽しく売れて、祐作さんと同じように仕事が楽しくなるということがわかりました。（後略）

（山本 千陽さん）



文化的景観を守るために農業をもっと知ろう！

親子で聴く講演会

12月6日（金）講師に藤本真帆さんをお迎えし「わたしと部落差別～住吉に生まれて～」という演題で、親子で聴く講演が開催されました。今年は、緒方学園5・6年生とその保護者の皆様も参加しました。感想を紹介します。

◇自分が部落出身と公表してたくさん的人に講演している方のお話を聞けて、当事者の思っていることや差別の実態がわかりました。部落差別をなくしていくようにしたいです。（9年生）

◇今回の講演会では、藤本さんの出身である住吉での差別についてお話しいただいて、改めて部落差別の酷さに心が締め付けられました。自分が生まれ育った大好きな故郷が差別を受けることがどんなに辛いか、想像するだけでもとても悲しくなります。特に住吉周辺に撒かれたというビラの話が印象に残っていて、ビラに「部落差別は当然なんや」といった文が書かれていたことには、怒りを覚えました。また現代では、差別をする人は減っていても、無関心な人が多く、部落差別についての正しい知識を持っている人が少ない状況にもあります。差別と闘っている方々がいることをしっかりと受け止め、これからも人権について学んでいきたいです。（9年生）

学習集会－家庭学習の充実－

12月16日（月）7・8年生を対象に学習集会を開きました。今回の講師は草場教頭先生でした。「授業の時は分かるのにテストができなかった」とか「テスト範囲のワークをやり終えないままテストを受けた」といった声が聞かれ、日頃の家庭学習に対する取組にも課題があると捉えています。教頭先生の講話の内容をご家庭で話題にしてください。

朝日中高生新聞（2024.4.22）によると、中学生の72%が宿題以外の家庭学習をしており、「宿題以外の自主的な家庭学習の時間の平均」は7年生が約60分、8年生が1時間38分となっています。中学生は勉強しているのです。宿題をしないとか、朝早く来てささっと済ませるなどということでは、中学校の学習内容に対応することは、そもそも難しいのです。生活リズムを整え、ゲームやSNSの誘惑を排除し、誠実にこつこつ取り組んでいきましょう。